

日本の「仕事の鬼」と中国の〈酒鬼〉

～漢字を介してみる日本と中国の文化～

鄧小平訪日で通訳を務めたベテラン外交官の新著
ビジネスで、旅行で、宴会で、中国人も
あっと言わせる漢字文化の知識を集中講義！

中国の漢字と文化は日本に生きている

二十四節気や十二支、春節（旧正月）や端午の節句、七夕、中秋など、日本と中国には漢字文化を介して日常生活の中で共有している風習や行事も少なくない。一方で、親族の呼称や姓・氏の考え方など、日本とは異なるものも多い。「日中の漢字の文化的な背景の共通点と相違点を知ることが重要」と著者は記す。

日本と中国で出現した新しい漢字文化

1970年代以降、中国では社会主義の政治経済体制、日本では高度経済成長のもとで多くの新語が生まれ、互いに影響しあってきた。今日の生きた漢字文化の具体例を紹介しながら、現代中国の政治、経済、社会を知る助けとなり、ビジネスや中国の人々との交流で必ず役立つ知識を余すところなく伝える。

富田昌宏 著

日本僑報社 ISBN 978-4-86185-165-0



【著者紹介】

富田昌宏（とみた まさひろ）

1947年10月生まれ。1970年神戸市外国語大学中国学科卒、外務省入省。外務省本省において、アジア局中国課、国際情報局分析二課での勤務を歴任。北京・広州・大連・マレーシア・ペナン・米国ニューオーリンズでの勤務を歴任。2004年～09年、在重慶総領事。2009年～11年、外務省外交史料館長。2011年3月退官。中国関係著書に『お金が語る現代中国の歴史』（三省堂、1997年7月出版）。


Book Review

話題の本 **エコノミスト** 6/10

日本の「仕事の鬼」と中国の〈酒鬼〉

富田昌宏著

鄧小平の訪日時に通訳を務めたベテラン外交官が日本と中国の漢字文化の違いを軽妙に解明。「協議した」は日本語では話し合ったの意味だが、中国語では合意したの意味。中国語の「販売人口」は人身売買のこと。「人間」は中国語では人の世の意味。「鬼」もルーツは中国で、元々は人の死後の亡霊の意味だが、今では「日本鬼子」のように人をのしる言葉としても使われている——。AKB48の「バクリ」問題までも壇上に載せた日中文化比較論。



日本僑報社
1944円

ご注文は、日本僑報社 e-shop（中国研究書店）、アマゾンなどをご利用いただくか、またはこのチラシを書店にご提示ください。（トーハン 日販 その他 取次コード：5752）

 <p>おかげさまで 20周年 since 1996</p>	<p>日本の「仕事の鬼」と中国の〈酒鬼〉 http://duan.jp/item/165.html 発行日：2014年5月28日 四六判 192頁 並製 定価：本体 1800円 + 税</p> <p>日本僑報社 e-shop http://duan.jp</p>	<p>注文部数</p> <p>部（送料無料）</p>	<p>ご注文 / 番線印</p> <p>ご注文の方は、 注文部数、住所 〒、氏名、電話番号をご記入ください</p>
<p>送信 FAX 03-5956-2809</p>			